

軍事力と経済力で

越前支配を強固にした

朝倉氏景・貞景・孝景

越 前一国に朝倉氏支配の基礎を築いた朝倉孝景（初代）。その支配を強固なものとしていったのが、2代・氏景、3代・貞景、4代・孝景です。

文明13（1481）年7月、初代

孝景が没すると嫡子の氏景が家督を継ぎます。室町幕府に御礼の品々を進上し、返礼の御内書と剣を賜り正式に継承が認められました。その後、氏景は国内の大寺社の所領を安堵し、家来に知行をあてがって新しい当主になったことを国中に示しました。

氏景は父、孝景の残した斯波氏・甲斐氏との抗争に勝利し、文明15（1483）年、越前国守護代の地

位に登りつめました。また、その経済力を背景に運上金を怠らなかつたため、幕府から高く評価されました。しかし、孝景が没したわずか5年後の文明18（1486）年に38歳で没してしまいます。

3代貞景は文明18（1486）年、14歳で朝倉氏の家督を継ぎ、大叔父の経景、慈視院光玖、景冬らに支えられ、その地位を最初から確立します。また、貞景は近隣の実力者である美濃斎藤氏と縁組みし、両国は以後長く同盟関係を保ちました。

室町幕府の内部抗争である明応の政変の後、越中に下向した將軍足利義材を貞景は支持しました。しかし、義材の上洛に際しては、一乗谷に入

れて歓待するにとどめ、自ら軍事支援を行うことはしませんでした。

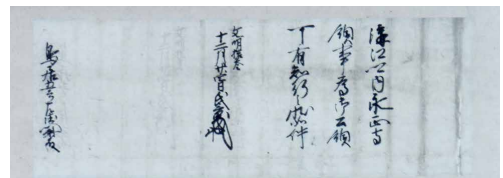
貞景の大叔父世代の指導者たちが没すると、敦賀郡司景冬の息子の景豊が貞景に謀反を起こします。文明3（1503）年、貞景は初代朝倉孝景の末子教景（宗滴）を抜擢して敦賀に出兵し、景豊を滅ぼしました。貞景にとつて朝倉氏の越前支配体制の確立が最大の課題であり、それはこの反乱を鎮圧することによってなされたのです。

4代孝景の時期には、ほぼ数年ごと

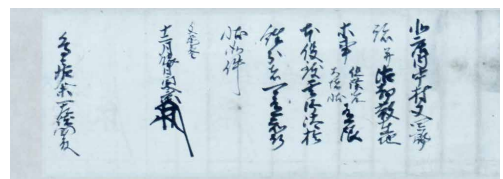
とに若狭・近江・美濃・加賀などの隣国や丹後、京都などに出兵しています。いずれも当主の孝景は出陣せず、敦賀郡司や大野郡司などの一族が大部隊を率いて数か月間在陣したのですが、これらの出兵の多くは將軍の要請によるものでした。こうしたこともあり、幕府における朝倉氏の位置付けも、ほぼ守護と同格となり、ついに孝景は御供衆から御相伴衆に列したのです。

越前支配を強固にし、名実ともに越前の国主の地位を手にする道程を進めた2代・氏景、3代・貞景、4代・孝景。彼らが積み重ねた功績は、戦国時代にあつて、いち早く平和と繁栄の日々を一乗谷にもたらしていつ

たのです。



朝倉氏景知行宛行状（『鳥居文書』）
（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵）



朝倉貞景知行宛行状（『鳥居文書』）
（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵）

関連史料・ゆかりの地

氏景、貞景が当主として鳥居氏の知行（土地）を宛てがったもの。

城下町への出入り口、「下城戸」と「安波賀」



下城戸（画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）

土塁が築かれ城下町への出入り口となっていた下城戸。下城戸に隣接する安波賀には、3代当主朝倉貞景の時代、京都を追われた足利義材が滞在した含蔵寺があったといひます。

【住所】福井市安波賀町（JR 福井駅から浄教寺行き京福バス「安波賀」下車3分）

参考資料等

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『越前朝倉氏・一乗谷 眠りからさめた戦国の城下町』
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館古文書調査資料3 越前・朝倉氏関係年表』

執筆・協力

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員 石川 美咲